SOU KITAMURA

北村 想／ザ・シェルター

THE SHELTER

JIRO ARIMA

在間ジロ／悪魔のいるクリスマス

ORTHODOX FANTASY

著者略歴
一九五二年生
滋賀県立石山高校卒
劇団「彗星'86」所属
主要著書
「北村想の劇襲」正・続
「虎★ハリマオ」
「十一人の少年」他

ザ・シェルター
悪魔のいるクリスマス

一九八四年一〇月三〇日印刷
一九八四年一一月一〇日発行

著者 © 北村想
発行者 高橋孝
印刷者 山岸真純
発行所 株式会社 白水社
東京都千代田区神田小川町三の二四
電話 営業部 〇三(三二)七八一一
編集部 〇三(三二)七八二一
振替 東京 九―三三二二八
郵便番号 一〇一

三秀舎印刷・黒岩製本

ISBN4-560-03325-0

北村　想

ザ・シェルター

歪間ジロ

悪魔のいるクリスマス

白水社

目次

ザ・シェルター……………………………………北村 想 5
対談「この本を語る」……………………………………… 73
悪魔のいるクリスマス……………………………在間ジロ 79

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

ザ・シェルター

登場人物

父　センタ　三十五歳くらい
母　サトコ　三十二、三歳くらい
娘　カノ　小学二年生くらい
祖父　センジューロー　七十歳くらい

1

とある家の庭の上に模擬的に作られた核戦争用シェルターの内部。
未来の家を思わせるような合理の中に、ちゃぶ台が一つあって、唯一それのみが、生活臭さをただよわせている。
センタが片手にメモを見ながら、荷物を下げて入ってきた。

センタ　えーと、後は各自が必要と考えるもの。たとえば、持病のある者はその薬、あるいは枕がかわると眠れぬ者は、愛用の枕など……か。サトコ、サトコ、（と、外に向かって）

はいという返事。

センタ　何やってんだい。台所の方はもういいのかい。

はいという返事。

センタ　じゃあねえ、枕持ってきて下さい。やっぱり眠るってことは大切だからさ。いつも使ってる枕にしますから、ね。

はいという返事。

センタ　おじいちゃんと、カノは何やってんの？

さあという返事。

センタ　さあって、ねえ君、ねえ、サトコ。

はいという返事。

センタ　君、いったい何やってるんだよ。さっきから、荷物を運んでるのはボクばかりじゃないか。

すいませんという返事。

センタ　すいませんって……（と、時計を見て）おいおい、もうそろそろ九時じゃないか。困るよ時間守ってくれなくっちゃ。午前八時三十分行動を開始ってことになってんだよ。最初からレポートに嘘書かなきゃならないじゃないか。たのむよ、おい、何やってんだよ。

サトコ　（大きなバッグを持ちながら）ごめんなさい。はい枕。

センタ　うん。何やってたんだよ。

サトコ　髪の毛がくしゃくしゃで、なかなかブラシがとおらなくって。

センタ　バカだね君は、旅行に行くんじゃないんだよ。核ミサイルなんだ、戦争なんだ。ほんとにミサイルが飛んでくると思ってごらん、ブラシがとおるかとおらないか問題になりますか？

サトコ　すいません。

センタ　考えろよ、そういうこと。

サトコ　あらあなた、頭の毛、後ろんところ立ってますわよ。

センタ　いや、だから、そういうことはね。……もう、ほんとに何にも分かっちゃいないね君は。……その大きなバッグは何？　何が入ってんの。

サトコ　毛糸です。いけませんでした？

センタ　毛糸か……まあね、それがあなたにとってどうしても必要なものであればいいですよ。そ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

りゃ三日もこういう場所にいれば退屈もするだろうし。

サトコ　カノのセーター、冬までに幾つか編んでおかないと。約束ですから。

センタ　はいはい。で、カノはどうしたの。何処に居るんだ。

サトコ　お庭で土いじりしてたみたい。

センタ　おじいちゃんも一緒か。

サトコ　はい。

センタ　しょうがないなあ。呼んでくるから、君はもう一度食料を点検しておいてくれたまえ。

サトコ　はい。……あ、あなたちょっと。（と、ブラシでセンタの後髪をとく）

センタ　（ため息）だからね……

サトコ　すいません。でも、何か気になっちゃって。

センタ　もういいもういい。（と、出て行こうとする）

と、カノが赤いリュックサックを背負って入って来る。

カノ　お母さん、手が汚れちゃった。

サトコ　あら、そう。じゃあ、こっち来て、奥の台所で洗いなさい。

カノ　はい。

センタ　待て、待てよおい。奥の台所って、シェルターの水を使う気か。
サトコ　すいません。
センタ　シェルターの水は、貯水タンクの水なんですよ。貴重な飲み水なんですよ。家の水道のように水道局に水道管がつながっていて、ひねれば無限に水が出てくるってわけじゃないんだ。
サトコ　すいません。家の方で洗わせます。
センタ　いいよもう、時間がないから。
カノ　洗わなくてもいいの。
サトコ　ハンカチでふいときなさい。（と、ふいてやる）
カノ　ねえ、水道って水道局につながってるの？
サトコ　ううん、ほんとは貯水池から浄水場を通って水道に流れてるのよ。
センタ　どうでもいいだろ、そんなことはこの際。
サトコ　はい、きれいになったわ。
センタ　カノ、おじいちゃんは？
カノ　センジューローなら来ないわ。このおうちが嫌なんだって。
センタ　えー、困ったなあもう。何を今さら、もう……
サトコ　私、お呼びしてきましょうか。
センタ　いや、君が行ったって、言うこと聞く相手じゃありません。カノ、カノちゃん。

カノ　なあに。
センタ　あのね、おじいちゃんに言って、ここへ来るようにって、お願いしてきて下さい。
カノ　私が行くの？
センタ　だって、おじいちゃん、カノの言うことならたいてい聞いてくれるでしょ。ね、たのむよ、ね、たのむよ。これはお父さんのお仕事なんだから。みんなそろわないと困るんだから、ね。
カノ　分かったわ。そのかわり、花火持ってきていい？
センタ　花火!?
サトコ　駄目よ花火なんて。ね、あなた、駄目でしょ。
センタ　あたりまえだ。
カノ　じゃあ、おじいちゃん呼びに行くのやめる。
センタ　よし。分かった。じゃあ持ってきていい。でも持ってくるだけだよ。この中ではできないんだよ。
カノ　うん。外でやる。
センタ　ほら、早く呼んできて。
カノ　はーい。（出て行く）
センタ　何だいったい、花火だなんて。
サトコ　すいません。おじいちゃんに買ってもらったらしいんですの。

センタ　核戦争用のシェルターの中で花火するバカがどこにいますか。
サトコ　すいません。
センタ　ほら、ぼんやりしてないで、食料の点検でしょ。
サトコ　あ、はい、そうでしたわね。
センタ　コンピューターの使い方は教えたでしょ。
サトコ　はい。
センタ　そしたら、水と食料と、生活する時間と人数とを入力するんです。そうだったでしょ。
サトコ　はい。
センタ　それで、扱いにくいことや、不明な点、不便なところがあった場合はボクに報告して下さい。そういうものを元にして、ボクはレポート書くんですから。（時計を見て）ああもう九時だ。
サトコ　あの、あなた。
センタ　え。
サトコ　このコンピューター、故障してるんじゃないでしょうか。
センタ　どうして。
サトコ　だって、動かないもの。
センタ　どれ。……
サトコ　ほらね。

センタ　バカ。動くじゃないか。
サトコ　あら、ほんと。
センタ　電源のスイッチ入れなきゃ、動くわけないでしょ。
サトコ　すいません。
センタ　ほんとにもう、バカなんだから。コンピューターが何で動くと思ってんですか。人間のようにメシ食って動くと思ってんですか。
サトコ　すいません。
センタ　もしメシ食ってコンピューターが動くんなら、コンピューターだってクソするはずでしょ。コンピューターがクソしますか。この世界のどこにコンピューターのトイレがありますか。
サトコ　そうですわねえ。
センタ　バカ、こんなたとえ話に感心するな。

カノもどって来る。

センタ　カノ、おじいちゃんは？
カノ　来るわよ。
センタ　そうか、えらいね。よくやった。

カノ　お父さんとお母さんが、養老院のことを話してるよって言ったら、来る気になったみたい。
センタ　ええ！
サトコ　カノちゃん、どうしてそんな嘘ついたの。ほんとにそんなこと言ったの。ねえ。
カノ　うん。
サトコ　あなた。
センタ　うーむ。策略としてはいいところをついてるが、今後に問題を残しそうだな。
カノ　言うことをきかないと養老院へつれていかれるわよって言ったら、イチコロよ。
サトコ　まあ！
センタ　うーん。これはいったい小学二年生の女の子が思いついてしかるべきことばなのか。事は老人問題と娘の教育問題と、両者にわたって複雑化しつつ、問題はその全貌をあらわしてきたと言ってよいだろう。
サトコ　それもレポートにお書きになるんですか。
センタ　いや、ボクのレポートは、あくまでもシェルターの実用面についてですから、家庭の問題にはふれなくていいでしょう。
サトコ　おじいちゃんいらしたわ。

たも網片手にセンジューローが現われる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com